

第一回学校運営協議会（全日制部会）議事録

校名	府立 春日丘高等 学校
校長名	濱崎 年久

開催日時	令和 6 年 7 月 3 日（金） 13:00 ～ 14:30
開催場所	大阪府立春日丘高等学校 本館 1 階 校長室
出席者(委員)	花崎委員、有福委員、藤委員、春山委員
出席者(学校)	濱崎校長、藤澤教頭、立脇事務部長、大岡首席、山田首席、松本進路部長
傍聴者	なし
協議資料	学校運営協議会の運営に関する要綱、実施要項、傍聴に関する要領、R5進路状況、R6スクールポリシー R5学校評価及びR6学校経営計画、R7採択予定教科書
備考	

議題等(次第順)
< 報告・協議事項について > ①R5進路実績について ②R6スクールポリシーについて ③R5学校評価及びR6学校経営計画について ④R7採択予定教科書について
協議内容・承認事項等（意見の概要）
○運営協議会委員の発言 ●本校教職員の発言 < R5進路実績について > ●76期の国公立大学の合格実績は例年並み。これまでの卒業生の入学時の成績と比較すると、国公立大学の合格率はもう少し高くなるかと考えていたが、共通テストの点数は高かったが合格に届かなかった生徒が若干いたようである。本校生徒の課題としては、一次試験での点数は良いが、二次試験の得点力が弱いことがあげられる。 また、今回共通テストの点数が思うように出なくても、志望校を変えずに受験した生徒も多く、第一志望を変えずに挑戦した結果、想定された合格者数に達しなかった生徒もいたのではないかと肯定的に捉えている。 理系であれば、地方の国公立大学を選択肢に加えると、合格圏内に入る生徒もいるが、なかなか地方に行きたがらない傾向がある。
○本当に行きたくて決めたのであれば、志望校を曲げないのは健全だと思う。大学や企業でも、人間的に浪人生の方が落ち着いていると感じる。親として家で我が子を見ているととてもそうは見えないかもしれないが、家庭で見せる姿は生徒のごく一面であり、それが全てではない。だから大学などでは、落ち着いた振る舞いをしていることも往々にしてある。志望校ではなく現役で入れる大学に妥協して進学してしまうと、周囲の生徒とのポテンシャルの違いに違和感を覚えることがある。進学したものの、途中で退学して別の大学に通いなおすのは、費用や時間がもったいない。これでいいのかと悩みながら大学に通い続けるのではうまくいかない。入学当初の4月の時点で志望校を受け直さないのであれば、何があっても自分はこの大学でやっていくんだという割り切ることが大事。
○海外の大学に進学する生徒はいないのか。 ●卒業後の海外留学は個人で行うので、学校ではなかなか把握しづらい。以前に韓国の大学に進学した生徒はいる。 ○今はインターネット等で世界中の論文が読める時代。もう少し海外をめざしたらどうかとも思う。 ○語学の面では一年も現地に住むと大体、日常生活は遅れる程度にできるようになる。そうなると海外の大学へ進学するハードルも随分下がる。大学でも3年や4年生でワーキングホリデーとして海外へ行くことを奨励しているところもある。ただし、海外留学はとても費用が高く、家が一軒建つぐらいである。そういった面もあるので、海外に行きましよう、と行って簡単に行けるものでもない。 ○それならば、これからの留学は中国やインドなどのアジアも視野に入れてもいいかもしれない。前に日本も秋入学を検討していた時期があったと思う。 ○それはいいと思う。学ぶ内容だけではなく、海外で過ごしたグローバルな経験が大事で、それにお金を出すということも大事。日本の学部教育は非常に優秀だけれども、インドの大学などもものすごくレベルが高くてカルチャーショックを受けると思う。特に理系の生徒には行ってほしい。インドでは、理系はマスターまで持っていて、博士号を持つかどうかとういのが一般的。
< R6学校経営計画について > ○遅刻の数を減らすことが目標にあげられているが、目標値の設定も難しいと思う。例えば、将来的に遅刻が0となったら、それは組織として嘘をついているか、遅刻をした生徒によほどの罰を与えているか、そういった恐怖政治のようなことをしない限り0にはならない。だから遅刻数が0となったとしたら逆に危機的状況である。仕事をし始めたら遅刻をするということは良くないが、ある意味高校生はモラトリアムというか少しくらいの遅刻であれば、よく頑張って学校に来たねと肯定的にとらえることもできるので、ある程度これくらいならいいんじゃないかという緩さがあってもいいのではないか。遅刻をどこまでも0にしないといけないと思うと、生徒も教師も苦しくなってしまうので、あまり追い詰めないであげてほしい。 ●遅刻は数ではなく内容もある。どういう内容の遅刻をなくすのか。あと少しでチャイムが鳴るぞ、と声を掛けたら、生徒が遅れないように走ってくれるのが健全なのかなと思う。遅刻にもいろいろな理由があって、それこそヤングケアラーのような事情を抱えている生徒だと学校に来るだけで偉いというケースもあるので、中身を見て、数字だけで捉えないようにはしたい。
< R7採択予定教科書について > ○教科書の選定についてはこれでいいが、教科書を毎日持ち運ぶのは見ていてとても重そうだ。せっかくクロームブックのようなパソコンが貸与されているのだから、デジタル教科書のようなもので授業ができないか。 ○私はどちらかというとい紙の教科書にこだわりたい。紙でないと、書き込むことができないので、学習の定着率も違うと考えている。ただ、確かに重量の問題はあるので、そこは何とかできればいいと思う。